

第7章 対象道路及び関連・その他道路の現況

7-1 対象道路の現況

7-1-1 南回廊サラヤ～ファレメ川(国境)間

セネガル国サラヤ (Saraya) から国境であるファレメ川までの区間 (51km) は切り崩しとラテライトの埋戻しによる平均4m幅の現道がある (写真 7.1, 写真 7.2)。

現地調査の際の走行距離は 52km であり、BID の道路計画延長 51km とほとんど差は見られなかった。

サラヤ～カラカネ (Karakaene) 間約 30km 区間は、比較的平坦な地形であり、土工道路も平滑であった。カラカネ～ファレメ川間の約 20km は低い山岳地帯であり、勾配がきつい箇所では路面の凹凸が激しくなり、屈曲も多かった。

平坦部では 30km/h 以上での走行が可能であり、平均 20km/h 程度であった。

写真 7.1 サラヤ～ファレメ川 (1)



路面は切り崩しであるが、比較的走行性はよい。

写真 7.2 サラヤ～ファレメ川 (2)



良質ラテライトで舗装が形成されている

写真 7.3 サラヤ～ファレメ川 (3)



轍を固結ラテライトで補修している

写真 7.4 サラヤ～ファレメ川 (4)



サラヤから以西は簡易アスファルト舗装が始まる

現場踏査中、急勾配区間 2 ヶ所で車の轍にラテライト碎石を補填する小規模の道路補修が民間の金採掘会社により実施されている (写真 7.3) のに出会った。

路面状態は良いとはいえないが、「マ」国側のケニエバ～バフィン川間と比べれば、車両通行に対する配慮も観察でき、比較的良好であった。

道路沿道は固いラテライト系の土壌が卓越しており、農業的土地利用はほとんど行われていない。

町を形成するサラヤからファレメ川の国境までの区間には、国境付近の集落ムッサラ・マヒナ・ミネ (Moussala Mahina Mine) の他、ダラフィン (Dalafing)、カラカネ (Karakaene) などの小規模集落がある。

7-1-2 南回廊ファレメ川 (国境)～ケニエバ間

セネガル国境からケニエバまでの区間 (23.3km) のうち、国境からカイ方面への分岐点までの区間 (19km) は、幅員 3m 程度の切り崩し土砂道であり、路面の状態は劣悪、可能な走行速度も 15～20km/h 程度である (写真 7.5, 写真 7.6)。

一方、分岐点 (写真 7.7) からケニエバまで (4.3km) は、切り崩しとラテライト埋戻しにより、路面状態が比較的良好な 2 車線の道路 (幅員 7m) が確保されている (写真 7.8)。

写真 7.5 ファレメ川～ケニエバ (1)



路面状態は悪く、四輪駆動車でないと走行は困難である

写真 7.6 ファレメ川～ケニエバ (2)



十分な幅員が確保できていない

写真 7.7 ファレメ川～ケニエバ (3)



分岐点

写真 7.8 ファレメ川～ケニエバ (4)



分岐点からケニエバまでは比較的良好である